（別紙様式4）

令和8年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
大阪ペピイ動物看護専門学校	平成12年3月30日	吉内　龍策	〒　537-0025 （住所）　大阪府大阪市東成区中道3-8-15 （電話）　06-6978-3022
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人宮﨑学園	平成12年3月30日	宮﨑　安弘	〒　537-0025 （住所）　大阪府大阪市東成区中道3-8-15 （電話）　06-6978-3022

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化教養専門課程	動物看護総合学科	平成25(2013)年度	－	平成26(2014)年度

学科又は専攻科の目的	スクールモットーである「慮る」ことを基本として、企業等と連携した動物看護総合実習を含む豊富な実習・演習授業により、動物看護に関する実践的かつ専門的知識と技術、コミュニケーション力を備えた愛玩動物看護師を育成することによって、動物の健康の保持・増進と病気の予防・治療及び動物福祉、公衆衛生の向上に寄与し、人と動物の調和のとれた社会創りに貢献することを目的とする。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	全員が愛玩動物看護師資格の取得をめざす。

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3　年	昼間	140　単位	79 単位	22 単位	39 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
360 人	346 人	0 人	0 %	4 %

就職等の状況

■卒業者数 ©	109	人
■就職希望者数 (D)	107	人
■就職者数 €	107	人
■地元就職者数 (F)	68	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	64	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	98	%
■進学者数	0	人

■その他

アルバイト1名、芸能活動1名

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

動物病院

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://www.peppy.ac.jp

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

総単位数		140 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	18 単位
	うち企業等と連携した演習の単位数	7 単位
	うち必修単位数	14 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	14 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	6 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	11 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	4 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	1 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	3 人
計		19 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	15 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

〇教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年9月24日　14:30～15:30/第2回　令和8年3月3日　15:00～16:00
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	していない

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年3月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
佐伯　潤	大阪市獣医師会　会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	①
桑原　岳	大阪市獣医師会　会長	令和7年9月1日～令和9年3月31日（2年）	①
川田　睦	株式会社ネオ・ベッツ　代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	②
淡路　俊喜	大阪府獣医師会　常務理事	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	②
新山　亮	日本動物病院協会　CAPP委員長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	②
小笹　孝道	株式会社十二志会　代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
安部　里梅	PET CARE HOME Lyuca　代表	令和7年9月1日～令和9年3月31日（2年）	③
宮﨑　安弘	新日本カレンダー株式会社　代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	－
吉内　龍策	大阪ペピイ動物看護専門学校　学校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	－
青木　理子	大阪ペピイ動物看護専門学校　副校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	－
石橋　妙子	大阪ペピイ動物看護専門学校 教務主任	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	－

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
動物外科看護学実習	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を身に付ける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を習得する。	ナイト動物病院
コンピュータ演習Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	飼い主様向けへの文書作成に向けて、Wordによる基本的な文書作成技術を身に付ける。また、飼い主様向けへの文書作成に向けて、応用機能を利用し、より効果的な文書作成技術を身に付ける。	合資会社ケイアールケイ
コンピュータ演習Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	飼い主様への説明ツールとしてPowerPointによる資料作成技術を身に付ける。Excelの基本動作を理解し、動物病院での事務業務簡素化を図る技術を身に付ける。また、ムービーメーカーを用いた動画作成や、基礎的なPC構成等の知識習得にも取り組む。	合資会社ケイアールケイ
動物愛護・適正飼養実習B（グルーミング）	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	愛玩動物看護師として必要なグルーミングや保定を教え、基本であるベーシックを徹底的に身につけるように指導する。また、犬の状態を把握し、健康状態を見分けられるようにしていく。	ひだまり動物病院
動物看護総合実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	臨床現場での臨床経験からより実践的な動物看護と専門職としての意識を身に付ける。	南大阪動物医療センター、ネオベッツVRセンター、他55病院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

獣医療と動物看護に関する専門的・実践的職業教育を提供するため、実務に関する専門的知識と技術の向上及び授業や学生に対する指導力向上を目的とした「教育研修規程」を定め、①企業等と連携した内部研修、②動物関連団体・動物看護における職能団体・動物関連企業等の主催する学術大会や研修会、セミナー等の外部研修、③業務経験に応じた初任者研修・管理職研修を効果的に組み合わせて、学校として計画的に研修等を推進することを基本方針とする。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容	
研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容	
研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容	

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	愛玩動物看護師が拓く、次の世代の動物医療	連携企業等：	**アルダジャパン株式会社**
期間：	2026年10月24日	対象：	全教職員
内容	国家資格化の現状を踏まえ、動物医療における『安心・安全』をどのように築いていくべきかを考えた。		
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容	
研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容	
研修名：	連携企業等：
期間：	対象：
内容	

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

○学校関係者評価

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
(1)教育理念・目的・目標	
1 教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
(2)学校運営	
1 教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2 教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3 単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4 学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
(3)学生の受入れ、学生支援	
1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2 自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
4 学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年3月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
川田　睦	株式会社ネオ・ベッツ　代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	獣医療関係者
淡路　俊喜	大阪府獣医師会　常務理事	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	獣医療関係者
新山　亮	日本動物病院協会　CAPP委員長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	獣医療関係者
小笹　孝道	株式会社十二志会　代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	獣医療関係者
佐伯　潤	大阪府獣医師会　会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	関連分野企業等関係者
桑原　岳	大阪市獣医師会　会長	令和7年9月1日～令和9年3月31日（2年）	関連分野企業等関係者
安部　里梅	PET CARE HOME Lyuca　代表	令和7年9月1日～令和9年3月31日（2年）	関連分野企業等関係者
金井　優佳	のびペットクリニック	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.peppy.ac.jp/school/koukai/		
公表時期	令和8年3月31日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.peppy.ac.jp/school/koukai/		
公表時期	令和8年3月31日		

授業科目等の概要

	（文化教養専門課程 動物看護総合学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○	－	－	生命倫理・動物福祉Ⅰ	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
2	○	－	－	生命倫理・動物福祉Ⅱ	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
3	○	－	－	動物形態機能学A	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1通	4	○	－	－	○	－	－	○	○
4	○	－	－	動物形態機能学B	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1通	4	○	－	－	○	－	○	－	－
5	○	－	－	動物繁殖学	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。	2前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
6	○	－	－	動物行動学Ⅰ	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1後	1	○	－	－	○	○	－	○	－
7	○	－	－	動物行動学Ⅱ	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	2前	2	○	－	－	○	－	－	○	－
8	○	－	－	動物行動学Ⅲ	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	3後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
9	○	－	－	動物栄養学Ⅰ	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する	1後	2	○	－	－	○	－	－	○	－
10	○	－	－	動物栄養学Ⅱ	6大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。	2前	2	○	－	－	○	－	－	○	－
11	○	－	－	動物栄養学Ⅲ	7大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。	3後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
12	○	－	－	比較動物学A（産業動物）	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体群管理について学ぶ	2前	1	○	－	－	○	－	○	○	○

	（文化教養専門課程 動物看護総合学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13	○	－	－	比較動物学B（実験動物）	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体群管理について学ぶ。	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
14	○	－	－	比較動物学C（展示動物）	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体群管理について学ぶ。	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
15	○	－	－	比較動物学D（野生動物）	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体群管理について学ぶ。	2後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
16	○	－	－	動物看護関連法規	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
17	○	－	－	動物愛護・適正飼養関連法規	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。	1後	1	○	－	－	－	○	－	○	－
18	○	－	－	動物看護学概論	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1前	2	○	－	－	－	○	－	○	－
19	○	－	－	動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	2前	2	○	－	－	○	－	－	○	－
20	○	－	－	動物薬理学Ⅰ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	1後	2	○	－	－	○	－	－	○	－
21	○	－	－	動物薬理学Ⅱ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	2前	1	○	－	－	○	－	－	○	－
22	○	－	－	動物薬理学Ⅲ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	3通	2	○	－	－	○	－	－	○	－
23	○	－	－	動物感染症学A（寄生虫）	微生物や寄生虫の分類、生物学的特徴、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	1前	2	○	－	－	○	－	－	○	○
24	○	－	－	動物感染症学B（微生物）	微生物や寄生虫の分類、生物学的特徴、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	1後・2前	3	○	－	－	○	－	－	○	－

	（文化教養専門課程 動物看護総合学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
25	○	－	－	動物感染症学C（免疫）	微生物や寄生虫の分類、生物学的特徴、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	2後	2	○	－	－	○	－	－	○	－
26	○	－	－	公衆衛生学	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	3通	4	○	－	－	○	－	－	○	－
27	○	－	－	動物内科看護学A	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	1前	1	○	－	－	○	－	－	○	○
28	○	－	－	動物内科看護学B	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
29	○	－	－	動物内科看護学C	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	3通	4	○	－	－	○	－	○	○	－
30	○	－	－	動物外科看護学Ⅰ	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	1後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
31	○	－	－	動物外科看護学ⅡA	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	2後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
32	○	－	－	動物外科看護学ⅡB	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	2後	1	○	－	－	○	－	○	○	－
33	○	－	－	動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	1後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
34	○	－	－	動物臨床看護学各論A	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	2前	2	○	－	－	○	－	－	○	－
35	○	－	－	動物臨床看護学各論B	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	2後	2	○	－	－	○	－	－	○	－

	（文化教養専門課程 動物看護総合学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
36	○	－	－	動物臨床看護学各論C	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	2通	4	○	－	－	○	－	○	－	－
37	○	－	－	動物臨床検査学Ⅰ	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
38	○	－	－	動物臨床検査学Ⅱ	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。	2後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
39	○	－	－	動物医療コミュニケーションⅠ	事前問診、入院動物の様態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	2前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
40	○	－	－	動物医療コミュニケーションⅡ	事前問診、入院動物の様態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
41	○	－	－	動物医療コミュニケーションⅢ	事前問診、入院動物の様態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	3後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
42	○	－	－	愛玩動物学A（犬・猫）	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。	1前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
43	○	－	－	愛玩動物学B（エキゾ）	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。	2前	2	○	－	－	○	－	○	－	－
44	○	－	－	愛玩動物学C（グルーミング）	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
45	○	－	－	人と動物の関係学Ⅰ	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	1後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
46	○	－	－	人と動物の関係学Ⅱ	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	3後	1	○	－	－	○	－	－	○	－
47	○	－	－	適正飼養指導論A（行動学）	愛玩動物の効用や飼育目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理の在り方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	3後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
48	○	－	－	適正飼養指導論B（福祉）	愛玩動物の効用や飼育目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理の在り方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－

	（文化教養専門課程 動物看護総合学科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
49	○	－	－	適正飼養指導論C（専門級）	愛玩動物の効用や飼育目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理の在り方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	3前	1	○	－	－	○	－	－	○	○
50	○	－	－	動物生活環境学Ⅰ	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼育環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護主要施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。	2後	2	○	－	－	○	－	○	－	－
51	○	－	－	動物生活環境学Ⅱ	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼育環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護主要施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	○
52	○	－	－	ペット関連産業論	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼育のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	2前	2	○	－	－	○	－	○	－	○
53	○	－	－	動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1後	1	－	－	○	○	－	○	○	－
54	○	－	－	動物内科看護学実習A	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1通	2	－	－	○	○	－	○	○	－
55	○	－	－	動物内科看護学実習C	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3通	2	－	－	○	○	－	○	○	－
56	○	－	－	動物臨床検査学実習Ⅰ	検体検査に必要な手技や臓器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	1前	2	－	－	○	○	－	○	○	－
57	○	－	－	動物臨床検査学実習Ⅱ	検体検査に必要な手技や臓器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	2後	1	－	－	○	○	－	○	○	－
58	○	－	－	動物外科看護学実習Ⅰ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2後	1	－	－	○	○	－	○	○	－
59	○	－	－	動物外科看護学実習Ⅱ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3前	2	－	－	○	○	－	－	○	○

	（文化教養専門課程 動物看護総合学科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
60	○	－	－	動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2通	2	－	－	○	○	－	－	○	－
61	○	－	－	動物愛護・適正飼養実習ⅠA（飼育）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	1通	4	－	－	○	○	－	○	－	－
62	○	－	－	動物愛護・適正飼養実習ⅡA（飼育）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	2通	4	－	－	○	○	－	○	－	－
63	○	－	－	動物愛護・適正飼養実習ⅢA（飼育）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	3通	4	－	－	○	○	－	○	－	－
64	○	－	－	動物愛護・適正飼養実習ⅠB（グルーミング）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	1通	4	－	－	○	○	－	○	○	○
65	○	－	－	動物愛護・適正飼養実習ⅡB（グルーミング）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	2通	2	－	－	○	○	－	○	○	－
66	○	－	－	動物愛護・適正飼養実習ⅢB（グルーミング）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	3通	2	－	－	○	○	－	○	○	○
67	○	－	－	動物看護総合実習Ⅰ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割責任について理解し、実務能力を修得する。	1後	1	－	－	○	○	○	○	－	○
68	○	－	－	動物看護総合実習Ⅱ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割責任について理解し、実務能力を修得する。	2後	3	－	－	○	○	○	○	－	○
69	○	－	－	動物看護総合実習Ⅲ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割責任について理解し、実務能力を修得する。	3後	2	－	－	○	○	○	○	－	○

	（文化教養専門課程 動物看護総合学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
70	－	○	－	基礎学力講座	愛玩動物看護師として動物病院で働く上で必要な「読み・書き・計算」の基礎知識・能力の学び直しを行う。社会人として求められる「常に学ぶ意欲」を持つ姿勢を習慣化し、「思考力・判断力・表現力」の向上を目指す。	1通	4	○	○	－	○	－	○	－	－
71	－	○	－	ペットグッズ講座	動物看護師が指導するペット用品の上手な使い方、実際の飼い主から寄せられた質問や相談より、犬猫飼い主が抱える身近なお悩みやお困り事を知り、ペット用品を活用することで解決できる、身近な問題の解決力を身につける。	1後	1	○	○	－	○	－	－	○	○
72	－	○	－	看護技術	獣医療における診療、保護動物の看護、災害時対応などを取り上げ看護観点の視野拡大を図る。	3後	2	－	－	○	○	－	○	○	－
73	－	○	－	診療補助	修得した技術や知識の応用力や実践力を養う。これまで履修した内容に加え、シチュエーションに応じた確実な手技を検討し、実践する。	3後	1	－	－	○	○	－	○	○	－
74	－	○	－	試験対策Ⅰ	2025年度愛玩動物看護師国家試験に向けての試験対策。①愛玩動物看護師国家試験に向けて、苦手分野を克服し、能動的に自主学習ができる。②想定される試験問題・過去問題を解き、補講を行うことで理解を深め、設問に対する応用力を養う。③2026年2月に実施される愛玩動物看護師国家試験での受験生全員合格を目指す。	3通	4	○	－	－	○	－	○	○	－
75	－	○	－	試験対策Ⅱ	2025年度愛玩動物看護師国家試験に向けての試験対策。①愛玩動物看護師国家試験に向けて、苦手分野を克服し、能動的に自主学習ができる。②想定される試験問題・過去問題を解き、補講を行うことで理解を深め、設問に対する応用力を養う。③2026年3月に実施される愛玩動物看護師国家試験での受験生全員合格を目指す。	3後	2	○	－	－	○	－	○	○	－
76	－	○	－	フォローアップ講座	卒業判定が危ぶまれる学生のフォロー講座	3後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
77	－	○	－	直前試験対策	国家試験1週間前から、模擬試験の解答解説を繰り返し実施する	3後	1	○	－	－	○	－	○	○	○
78	－	○	－	コンピュータ演習Ⅰ	Wordによる基本的な文書作成技術とタッチタイピングを習得する。文書作成の応用として、すべての工程を自作するオリジナル文書作成を行う。PowerPointの基礎を学び、効果的なプレゼンテーション作成技術を身につける。	2通	4	－	○	－	○	○	－	○	○
79	－	○	－	コンピュータ演習Ⅱ	プレゼンテーション作成の応用として、デザインを含むすべての工程を自作するオリジナルプレゼンテーション作成を行う。Excelの基礎を学び、データの集計・分析技術を身につける。	3後	2	－	○	－	○	○	－	○	○

	（文化教養専門課程 動物看護総合学科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
80	－	○	－	院内コミュニケーションⅠ	動物病院での接遇、飼い主様対応スキルの重要性について理解する。身だしなみ、表情、言葉遣い、立ち居振る舞いなど社会人としての基本的コミュニケーションスキルや動物病院での受付（飼い主様のお迎え）業務の基礎的応対を身に付ける。	1通	2	－	○	－	○	○	○	○	－
81	－	○	－	院内コミュニケーションⅡ	社会人としての基本的コミュニケーションスキル（身だしなみ、表情、言葉遣い、立ち居振る舞いなど）を身につける。音声表現スキルの向上、マルチタスクを身につける（メモをとりながら正確・迅速な業務処理）。動物への愛情・飼い主様への配慮が伝わる応対について考え、表現する。職域の果たす責任を認識して応対する。	2後	1	－	○	－	○	○	○	○	－
82	－	○	－	院内コミュニケーションⅢ	コミュニケーションスキルのアップ、高頻度の受付業務の知識を学び、愛玩動物看護師として即戦力となるための能力を高める。	3前	1	－	○	－	○	○	○	○	－
83	－	○	－	飼い主対応	動物の福祉は飼い主あり方に多大な影響を受ける。そのため動物福祉の質の向上には飼い主の支援が不可欠である。この点で、動物看護師は対人援助職とも言える。本科目では、対人援助の基となる人の心や人の多様性、コミュニケーションについての講義・ワークなどを通じ、心理学的な見地から、飼い主の支援（対人援助）を理解、実践する事を目的とする。	3前	1	○	－	－	○	○	－	○	－
84	－	○	－	卒業制作Ⅰ	客観的な視点、クリティカルシンキング（批判的な考え）などを養い、論理的な思考を身に付ける。様々な論文を読むために論文の構成を知る。学会などで自ら発表できるような論文を作成できるように基本を身に付ける。	2後	2	○	－	－	○	○	○	－	－
85	－	○	－	卒業制作Ⅱ	客観的な視点、クリティカルシンキング（批判的な考え）などを養い、論理的な思考を身に付ける。様々な論文を読むために論文の構成を知る。学会などで自ら発表できるような論文を作成できるように基本を身に付ける。	3前	2	○	－	－	○	○	○	－	－
86	－	○	－	選択授業Ⅰ	大阪ペピイ動物看護専門学校における動物福祉に基づいた動物実習規定に基づき、愛玩動物看護師として職務に当たる際に活かせる知識・技術を習得し、それにかかわる獣医師、飼い主との関わり方へ応用できるようになる。	2前	2	△	－	○	○	○	○	○	－
87	－	○	－	選択授業Ⅱ	大阪ペピイ動物看護専門学校における動物福祉に基づいた動物実習規定に基づき、愛玩動物看護師として職務に当たる際に活かせる知識・技術を習得し、それにかかわる獣医師、飼い主との関わり方へ応用できるようになる。	2後	2	△	－	○	○	○	○	○	－
88	－	○	－	選択授業Ⅲ	大阪ペピイ動物看護専門学校における動物福祉に基づいた動物実習規定に基づき、愛玩動物看護師として職務に当たる際に活かせる知識・技術を習得し、それにかかわる獣医師、飼い主との関わり方へ応用できるようになる。	3前	2	△	－	○	○	○	○	○	－

（文化教養専門課程 動物看護総合学科）

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
89	－	○	－	選択授業Ⅳ	大阪ペピイ動物看護専門学校における動物福祉に基づいた動物実習規定に基づき、愛玩動物看護師として職務に当たる際に活かせる知識・技術を習得し、それにかかわる獣医師、飼い主との関わり方へ応用できるようになる。	3前	2	△	－	○	○	○	○	○	－
90	－	○	－	総合演習Ⅰ	人間性や基本的な生活習慣、社会で求められる社会人基礎力と慮る精神を身につける。	1通	4	－	○	－	○	○	○	－	－
91	－	○	－	総合演習Ⅱ	人間性や基本的な生活習慣、社会で求められる社会人基礎力と慮る精神を身につける。	2通	4	－	○	－	○	○	○	－	－
92	－	○	－	総合演習Ⅲ	人間性や基本的な生活習慣、社会で求められる社会人基礎力と慮る精神を身につける。	3通	4	－	○	－	○	○	○	－	－
93	－	○	－	特別授業Ⅰ	学外及び学内での特別授業で様々な知識を学び見聞を広げ社会貢献に活かす。また、学校行事を通じて、チームワークと慮りを身に付ける。学校行事への積極的な参加と慮りでクラス交流を図り、学生生活を楽しみ、思い出を作る。	1後	1	○	－	－	○	○	○	○	○
94	－	○	－	特別授業Ⅱ	学外及び学内での特別授業で様々な知識を学び見聞を広げ社会貢献に活かす。また、学校行事を通じて、チームワークと慮りを身に付ける。学校行事への積極的な参加と慮りでクラス交流を図り、学生生活を楽しみ、思い出を作る。	2後	1	○	－	－	○	○	○	○	○
95	－	○	－	特別授業Ⅲ	学外及び学内での特別授業で様々な知識を学び見聞を広げ社会貢献に活かす。また、学校行事を通じて、チームワークと慮りを身に付ける。学校行事への積極的な参加と慮りでクラス交流を図り、学生生活を楽しみ、思い出を作る。	3後	2	○	－	－	○	○	○	○	○
合計					95 科目			183 単位							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①取得単位数が所定の単位数の80%以上に達していること ②動物愛護・適正飼養実習ⅢA（飼育）、総合演習Ⅲの単位を取得していること ③動物看護総合実習（インターンシップ含む）の単位を取得していること ④愛玩動物看護師国家試験受験資格に関わる科目の単位を取得していること ⑤所定の学費を完納していること	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	実習・演習・講義など	１学期の授業期間	14 週